会員の広場

○今度の気象学会春季大会が気象大学校であるときいて，大変よいことだと思っている．他の学会だと，全国津々浦々の大学で研究発表会が開かれ，これが大きな楽しみになっている．これに比べ，気象学会はワンパターンにすぎる．大会を受け入れる大学をふやそう！ (M)

○ポスターセッションについて一言．学会にポスターセッションが設けられたことは歓迎するが，参加者の意識に問題がある．しばしば，研究として未成熟なものがポスターに回されがちであるが，10分足らずの講演より，じっくり議論できるポスターセッションの方に，より重要な研究発表を持ってくるべきと考える．筆者の関係するある学会の研究発表会において，企画者側で発表を口答とポスターに半々にふりわけ，ポスターセッションの時間を十分にとったところ，大変好評であった．気象学会でも，このような試みをしてはどうか．そうでないと今のままでは，ポスターセッションは，つまらない発表が多くなってつぶれてしまうのではないかと危惧する． (F)

○私は国立の研究機関に勤めている者ですが，意外に省庁の壁が厚いことに驚きます．つきつめてゆくと，研究計画や予算要求の際に，他省庁との重複は許されない，というおかみの方針にゆきあたるのですがが，これでは省庁間の共同研究なんかできっこありません．何をするにも「○○研究所でやっているのでは」「○○庁とどこが違う」と責められる．やっとこれをクリアしたと思ったら，自分のところに予算がついたがために，他機関の予算が通らなくなり，末端の研究者間に余計な摩擦を生じる——これは，大学との協力にもあてはまる話です．いろいろ問題もあるでしょうが，できれば偉い先生方に，研究者が省庁のわくを越えて協力できる体制に改善できるよう，学術会議などを通して働きかけてほしいと思います．私共末端の研究者も，交流を活発にして相互理解を深めていきたいものです．日本では，決して研究者の数は多くないのですから，協力しやすい環境を作ることが自分達にとっても有益であると思います．(M)

（編集事務上の手違いで，会員の広場に掲載されるはずの原稿の一部が，4月号の編集後記に掲載されました．ここに改めて再録いたします．——天気編集委員）

国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

天気34巻12号でお知らせしましたとおり，国際学術交流事業の一環として，国際学術研究集会への出席の旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので，希望者は期日までに応募願います．

記

対象の集会 昭和63年12月1日～昭和64年5月31日の期間に外国で開かれる国際学術研究集会

応募資格 日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの．

募集人員 若干名

補助金額 20万円（昭和63年度の後期分）

応募手続 所定の申請書類（日本気象学会事務局備付）を期日までに国際学術交流委員会（〒100 千代田区大手町1－3，気象庁内日本気象学会気付）に提出する．大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する．
期日：昭和63年8月31日

補助金受領者の選考・義務 国際学術交流基金運用の方針に基づいて行う．